

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
東洋医学概論2							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
鍼灸学科・昼間部	1年	後期	天野 陽介		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	基礎はり学基礎きゅう学			座学	2	20	
科目概要							
東洋医学には2000年以上の歴史があります。その長い歴史のなかで、自然と人体の関わりや人体の仕組み・働きが捉えられてきました。本科目では、そうして築き上げられた東洋医学理論、すなわち人体観や疾病観などの概論を学びます。本科目で学んだ内容は、2年次以降の東洋医学臨床などで学ぶ東洋医学的治療論につながっていきます。							
目標							
一般目標 (GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標		鍼灸施術に際して東洋医学の理論に基づいた思考で病状の診察と弁別を行うことのできる基礎的能力を養うために、東洋医学概論を学び、東洋医学における生理と病理、四診の知識を身に付ける。					
到達目標 (SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)		<ol style="list-style-type: none"> 五臓六腑の病証を分類することができるようになり、多肢・語群選択問題に答えられる。 五臓の複合病証を分類することができるようになり、多肢・語群選択問題に答えられる。 四診(望診・問診・聞診・切診)による症状鑑別の知識を覚え、多肢・語群選択問題に答えられる。 					
履修に必要な予備知識や技能							
はじめに接する考え方や言葉も多いと思います。それらに対する好奇心、それらを身近にするために自分の経験や身の回りのことと結びつける想像力、また、毎回復習するなどコツコツ勉強していく継続力が本科目の履修に必要なことです。							
教科書・参考書							
教科書『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会[編]、医道の日本社。 参考書：必要に応じて紹介します。							
受講上の注意							
配布資料はきちんと整理ファイリングしてください。学習状況を確認する小テストを随時行います 授業内容の【同期型】はzoomによるリアルタイムのオンライン授業、【非同期型】は録画配信授業です。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合 (%)	100						100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	【非同期型】五臓の病のパターン(肝)				81-84	教科書・配付資料	
第2回	【非同期型】五臓の病のパターン(心)				90-94	同上	
第3回	【非同期型】五臓の病のパターン(脾)				100-102	同上	
第4回	【同期型】五臓(肝・心・脾)の病のパターン				81-84,90-94,100-102	同上	
第5回	【非同期型】五臓の病のパターン(肺)				110-113	同上	
第6回	【非同期型】五臓の病のパターン(腎)				120-123	同上	
第7回	【非同期型】六腑の病のパターン				84-85,94-95,103-105,114,123	同上	
第8回	【同期型】五臓(肺・腎)と六腑の病のパターン				110-113,120-123,84-	同上	
第9回	【非同期型】ふたつの臓が病むパターン				127-142	同上	
第10回	【同期型】中間確認とフィードバック、全身の気機				143-149	同上	
第11回	【非同期型】東洋医学の診察法(望診・問診)				201-212,213-218	同上	
第12回	【非同期型】東洋医学の診察法(問診:主訴、基本的問診事項)				219-234	同上	
第13回	【非同期型】東洋医学の診察法(問診:その他問診事項)				234-248	同上	
第14回	【非同期型】東洋医学の診察法(問診:その他問診事項)				234-248	同上	
第15回	【同期型】望診・問診・問診で人体を診る				201-248	同上	
第16回	【非同期型】東洋医学の診察法(切診:切経、経穴診、腹診)				249-255	同上	
第17回	【非同期型】東洋医学の診察法(切診:脈診)				255-265	同上	
第18回	【同期型】切診で人体を診る、診察の総合判断(四診合参)				249-267	同上	
第19回	定期試験					同上	
第20回	【同期型】試験フィードバック					同上	
実務経験と本講義との関連について							
北里大学東洋医学総合研究所に上級研究員として勤務、現在、客員研究員。東洋医学関連学会(日本東洋医学会、全日本鍼灸学会、日本伝統鍼灸学会など)の委員として活動。これら東洋医学研究の実務経験をもとに東洋医学概論を講義します。							
メールアドレス							
amano@nihonisen.ac.jp							